

1. 法施行の経緯

悪質な自転車についての道路交通法が本年6月1日に改正されました。

改正のポイントは交通の危険を生じさせる違反を繰り返す自転車には、安全運転を行わせる為、「自転車運転者講習」の受講が義務付けられました。

警視庁のデータによると自転車に関連する死亡事故件数のうち、約8割が自転車側の違反で発生しています。その内容をみると、周囲の安全確認の怠りや不適切な運転操作等の「安全運転義務違反」37.1%、交差点を安全に進行する義務を怠った「交差点安全進行義務違反」9.8%、一時停止を怠った「一時不停止」9.0%と続き、悪質で危険な自転車の運転が重大な事故につながっていることがわかります。

■自転車の運転者による悪質で危険な違反行為

●車道の走行

()内は道路交通法の対応条文

- ・通行禁止の標識がある道路を走行した(第8条第1項)
- ・車道右側や歩道、通行が許可されていない場所を走行した(第17条第1項、第4項、第6項)
- ・路側帯の通行時に歩行者の通行を妨害し徐行せずに走行した(第17条の2第2項)
- ・一時停止の標識や停止線がある場所で一時停止を怠った(第43条)

●歩道の走行

- ・自転車も通行できる歩道で、歩行者に注意せず徐行しないで走行した(第9条)
- ・自転車も通行できる歩道で、徐行や一時停止をせずに歩行者の通行を妨害した(第63条の4第2項)

●交差点の進行

- ・信号無視して進行した(第7条)
- ・交差点での交通ルールを守らず、他の車両や歩行者の安全な進行を妨げた(第36条)
- ・交差点で右折する際に対向する車両の進行を妨げた(第37条)
- ・環状交差点での交通ルールを守らず、他の車両等の安全な進行を妨げた(第37条の2)

●踏切の進行

- ・警報機が鳴っている、又は遮断機が下がり始めている(下りている)踏切に入った(第33条第2項)

●運転態度や操作

- ・飲酒して走行した(第65条第1項、第117条の2第1号)
- ・危険な運転操作や前方をよく見ていない等、安全運転を行う義務を怠った(第70条)

●自転車の整備

- ・ブレーキが無い、又は整備不良の状態で行った(第63条の9第1項)



■自転車運転者講習

上記のような、自転車の違反を2回以上(3年間)行くと公安委員会より「自転車運転者講習」の受講命令が届きます。

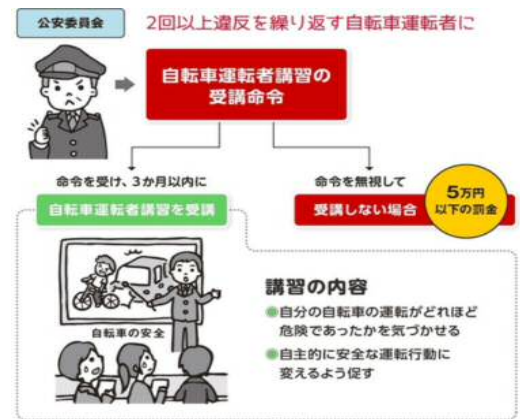
命令を受けてから3ヶ月以内に受講してください。

(受講時間:3時間、講習料:¥5,700-)

講習内容は

- ①自分の自転車の運転がどれほど危険であったかを気付かせる。
- ②自主的に安全な運転行動に変えるよう促す。

尚、受講命令を無視して受講しない場合は**5万円以下の罰金**が科せられます。



2. 雨天時の安全運転のポイント

■雨天時走行の危険性

●路面が滑りやすく停止距離が長くなる

雨天時は路面が濡れているため滑りやすく、車の停止距離が乾燥した路面のときよりも長くなります。特に雨の降り始めは、道路表面の土埃や砂がオイル状になり、路面に油をひいたような状態になるため最も滑りやすくなります。



●歩行者も視界が悪くなり周囲に対する注意が欠けやすい

雨の日は車だけでなく、傘をさした歩行者も視界が悪くなります。しかも、路面の状態を気にしているため、周囲に対する注意が欠けやすく、接近してくる車に気付かず道路に出てくる場合があります。



●雨の降り始めは歩行者等が危険な行動をとることがある

傘を用意していない歩行者や自転車は、雨が降り始めると早く目的地へ行こうとしたり、適当な場所で雨宿りしようと先を急ぎがちです。そのため、車に対する注意が欠けて、十分な安全確認をせずに道路を横断したり赤信号の変わり目で強引に交差点を渡ってくる場合があります。

●視界が悪くなり安全確認が不十分になりやすい

雨天時は視界が悪くなります。特に側方や後方は、サイドミラーやリアウインドーに付着した水滴でより見えにくい状態となるため、進路変更時や右左折時に側方や後方の安全確認が不十分となり、バイクや自転車を見落とすことがあります。

又、バック時も後方の視界が悪いうえに窓を閉めたままでバックするドライバーが多く、後方の安全確認が不十分になりがちです。



■雨天時の事故防止のポイント

●スピードを落とし車間距離をとる

雨天時は停止距離が長くなるとともに、視界が悪いため危険の発見も遅れやすくなります。雨が降り始めたら、直ぐにスピードを落とすとともに、車間距離もいつもより長くとりましょう。

又、急ハンドル・急ブレーキはスリップの大きな原因となりますから、絶対に避けましょう。



●進路変更時等は後方の安全確認をしっかり行う

進路変更時や左折時には、サイドミラーをよく見るだけでなく、振り向いて後方を確認するなどして後続車を見落とさないようにしましょう。

バックするときも、慎重に後方を確認し、いつでも停止できる速度で徐々にバックしましょう。



●歩行者や自転車の動きに注意する

前方に歩行者や自転車を見かけたときは、車に気付かずに道路を横断してくるかもしれないと考えて、スピードを落とすとともに、歩行者や自転車の動きに十分注意しましょう。

又、雨の日は路肩に水たまりが出来やすい為、歩行者や自転車が水たまりを避けて車道に出てくることもありますから、前方の路面の状況にも注意して、歩行者や自転車がどのような動きをするかを予測しながら運転しましょう。

尚、歩行者や自転車の側方を通過するときは、十分な側方を通過するときは、十分な側方間隔をとるとともに、泥や水をはねかけないように注意しましょう。

